

授業科目名 <英訳>	学校論ゼミナール Seminar on Theories of Schooling				担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 西岡 加名恵					
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2016・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	課題演習	使用 言語	日本語
共用科目											
【授業の概要・目的】											
<p>本科目では、実際の高等学校が直面している課題の解決を目指して調査を行い、その成果を学校に示すことによって、学校教育の改善に資することをめざす。具体的には、国際化に対応する英語教育、市民性（主権者）教育、メディア・リテラシー（ICT活用）に関する教育、探究活動への支援といった課題について探究する。</p>											
【到達目標】											
<p>学校のニーズを理解し、担当する課題に対応する調査を行ったうえで、成果を提示するレポートをまとめることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 オリエンテーション 本科目で取り組む課題を提示するとともに、レジュメの書き方、文献調査の進め方について説明する。また、各グループの研究課題を設定する。</p> <p>第3・4・6・7回 発表と検討 グループに分かれて、課題に関する文献調査を行い、その成果を報告する。参加者で内容を検討し、改善を図る。</p> <p>第5回 学校見学の実施</p> <p>第8回～第10回 フィールドワーク</p> <p>第11回～第14回 発表と検討 グループに分かれて、課題に関する調査を深め、その成果を報告する。参加者で内容を検討し、改善を図る。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>受講生の人数やニーズ、学校との調整などにより、上記は変更する場合もある。</p>											
【履修要件】											
<p>入門的なゼミなので特に予備知識は必要ないが、課題への積極的な取り組みを期待する。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>授業中に指定する課題(100%)で判断する。</p> <p>優： 課題において、高い水準で目標を達成している。 良： 課題において学修の効果が認められ、概ね目標を達成している。 可： 課題において、目標をある程度達成しているが、さらなる努力が求められる。</p>											
----- 学校論ゼミナール(2)へ続く -----											

学校論ゼミナール(2)

不可： 学修の効果が十分に認められず、目標を達成したとは言い難い。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

発表者は、与えられた課題に対応する調査を行い、詳しいレジュメを事前に準備する必要がある。また、授業での検討と追加の調査を踏まえて各自の探究を深めたうえで、期末レポートを執筆することが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

本科目は、京都大学COC事業(地(知)の拠点整備事業)「COCOLO域」の「いきよし」(越境実習科目群)の科目に位置づいている。「COCOLO域」とは、「地域のみなさま(団体・企業)と、京都大学の教職員・学生のコラボレーションで、『京都の各地域の課題を解決する』ことを目指した事業」である(<http://www.coc.kyoto-u.ac.jp/>)。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。